

## 業界から一言

### 製造業

食料品製造／菓子関連は、砂糖、包装資材の高騰が経営を圧迫、更なる値上げが懸念。水産物加工は、原料が依然として上昇傾向にあり、採算面が厳しい。ワインは、酒税法改正による価格改定の売れ行きへの影響が懸念。

繊維・同製品／織物は、袖裏地の発注が増加したが、ネクタイ、傘生地は減少、マフラー受注の遅れ等の影響により売上が減少（クールビズ対策が必要）。

木材木製品／木材の販売量は、仕入量は、流通・製造部門とも若干増加。販売価格は、流通部門は不変、製造部門は微増。仕入価格は流通部門は上昇したが、製造部門は不変。外材は強含み、国産材は保ち合いの状況。

印刷／売上は増加したが、企業間格差がますます拡大。

窯業土石製品／生コンクリートの出荷量は、公共物件が3月に終了し、民需も少ないため、売上が大幅

に減少、今後も期待薄。砂利販売は売上・

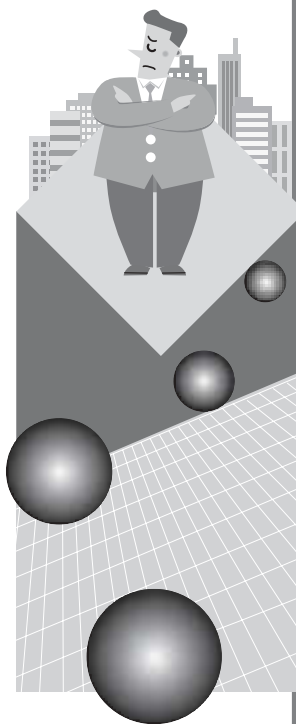
販売価格・設備操業度が上昇したが、売上代金の回収遅延、特採料の支払いのため、資金繰りが悪化している企業がある。

鉄鋼機械金属／機械製造は、全体的に好調に推移しているが、末端企業は依然として厳しい。

宝飾品／宝飾品は、金・プラチナ地金価格の高騰により、製品単価は上昇しているが、生産数が減少している。需要の低迷・輸入品の圧迫などで依然として厳しい状況が続いている。

### 非製造業

小売業／水産物は、価格上昇傾向にある中、大型店との競争により売上が減少。食肉小売は、原材料・配送価格が上昇し、収益を圧迫。家電は、デジタル機器が好調であるが、白物家電は減少し、売上が減少。健康機器・住宅機器販売などに力を入



山梨県中小企業団体中央会  
情報連絡員報告  
(平成18年4月分)

# 景況情報

調査対象の50業界のDI値は、製造業は「売上高」「収益状況」ともやや悪化したものの、3ヶ月連続して「売上高」がプラス値を示しており、回復びりがうかがえる。非製造業においても「売上高」「収益状況」がやや悪化した。全体的には回復の動きが定着しつつある。

一方、依然として原油価格の先高感が高まっており、燃料費等の高騰に加え、原材料、包装資材などのコスト高が多くの産業の収益を圧迫し、コストの増加に伴い、資金繰りが悪化している企業も見られるなど、依然として厳しい経営を余儀なくされている企業が見受けられる。

れ、業態を変化させ、売上を確保している企業がある。燃料販売は、4月の価格は据えおき、5月は5円程度の値上げが必要の見込み。自動車販売は、販売台数は減少したが、利幅のある車種の売り上げが好調であるため、売上が増加。

サービス業／ホテル旅館は、地域間・企業間による格差が見られる。ヴァンフォーレ効果のためか、売上・収益とも改善した旅館も見られる。

度であり、厳しい状況が続く。鉄構工事は、大手ゼネコンが談合の摘発、独禁法の規制強化により、厳しい経営を強いられており、下請へのしわ寄せがさらに厳しくなっている。管工事は、4月は微増したが、公共事業の減少により、年間では売上減少が見込まれる。加えて材料の値上がりで収益を圧迫。型枠工事は、公共事業が減少し、民間工事も、安値競争による採算割れで、倒産や廃業が懸念される。

運輸業／タクシー業界は、4月は異動時期であり売上増の期待をしたが、前年比微減。運輸業者は、燃料価格が再上昇し、自社で運送すると採算割れの状況であり、外注による中間マージンにより、収益を確保している企業がある。バス業界は、新規参入による供給過多（価格競争）、燃料などのコスト上昇により経営が悪化している企業がある。

建設業／建設業は、公共事業の額が平成10年度の半分程